令和６年度第１回北海道地方競馬運営委員会議事録

（日時　令和６年７月25日（木）16:00~17:30
場所　門別競馬場Ａスタンド３階）

1　開会
（競馬事業室　庄司参事）

2　あいさつ
（安田競馬事業室長）

・　北海道地方競馬運営委員会の開催に当たり一言御挨拶。
・　平本委員長様をはじめ、委員の皆様方には、御多用の中、昨年に引き続き門別競馬場での運営委員会に御出席いただき感謝。
　また、日頃から道政の推進はもとより、ホッカイドウ競馬の運営に御理解と御協力を賜り、厚く御礼。
・　本年２月の運営委員会開催後に、北海道新聞社様の人事異動があり、小林委員から新たに佐藤委員に御就任いただいた。ホッカイドウ競馬や馬産地の発展に向けて、新たな視点と発想で色々御意見をお願いしたい。
・　さて、今年のホッカイドウ競馬は４月17日に開幕。本日で全日程84日間のうち、39日目となり、まもなく今年の折り返しを迎える。
・　また、昨日時点の発売額が232億９千万円となり、前年対比99.1％ということで、日々動きがあるがほぼ前年並みに推移している。
・　今年は、旭川で始まったナイター競馬の30周年目、門別競馬場でのグランシャリオナイター15周年目の節目の年にも当たっている。開幕から30周年、15周年を記念したイベント等を展開。
・　さらには公式ユーチューブチャンネルを活用した様々な情報提供や、ＬＩＮＥを活用したキャンペーンの実施、インスタグラムを活用した門別競馬場フォトコンテストの実施など様々なＳＮＳを活用しながら、新たなファンの獲得に向けて取り組んでいる。
・　また、魅力ある番組づくりについても、上位クラスの３歳馬の確保するため、冬期在厩馬に対する手当の充実や、発売が見込まれる後半３競走の出走頭数を確保すべく番組編成の工夫も行っているところ。
・　本日の委員会では、令和５年度のホッカイドウ競馬の収支状況と令和６年度の開催状況について御報告をさせていただくとともに、ホッカイドウ競馬の収支構造についても御説明を予定。
・　先ほど屋内調教用坂路施設や今年度着手しているきゅう舎地区の整備予定地などを御視察いただいたが、皆様方には、こうした状況も踏まえて、今後のホッカイドウ競馬の運営に当たって、様々な御意見をいただきたい。
・　ホッカイドウ競馬は馬産地に立脚した競馬場として、地域の経済や雇用を支え、全国の競馬場に強い競走馬を供給する役割を担っている。

・　今後とも、馬産地をはじめ競馬関係者とも連携しながら、運営委員会の皆様のご意見もいただきながら、競馬事業の安定的な運営に努めていきたいと考えている。
・　本日は、忌憚のないご意見やご提言をいただきたい。本日はよろしくお願いします。

3　議題

（1）出席状況報告

（事務局　庄司参事）

・　はじめに、本日の委員の出席状況をご報告。委員１１名のうち８名のご出席いただいており、北海道地方競馬運営委員会条例に定める過半数の出席を満たしておりますことから、本委員会は成立していることをご報告。
・　次に、お手元の資料の確認。配布資料は、次第、出席者名簿、配席図、資料１及び資料２。不足の場合は事務局までお知らせいただきたい。
・　続いて、委員の改選についてご報告。前回の運営委員会は、本年２月 14 日に札幌にて開催。その後、北海道新聞社の小林 基秀委員が、社内でのご担当が変更となったため、後任の佐藤 元彦様に新たに運営委員にご就任いただいた。佐藤委員から一言ご挨拶をお願い。

（佐藤委員）

・　北海道新聞の佐藤元彦です。私は出身がどちらかというと運動部で、競馬にも少し関わっていました。新人の時に浦河に勤務していまして、馬産地愛にも満ちております。何か色々力になれればと考えているのでよろしくお願いします。

（事務局　庄司参事）

・　ありがとうございました。
・　本日、鳴海委員、浜近委員におかれましては、都合により欠席されています。また西村委員は別用務により遅れて出席される旨ご報告いただいております。
・　それでは、この後の議事の進行を平本委員長にお渡ししますので、どうぞよろしくお願いします。

（平本委員長）

・　平本でございます。今日は活発な御議論をいただければと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。
・　それでは、議題の（1）令和５年度ホッカイドウ競馬の収支状況及び令和６年度ホッカイドウ競馬の開催状況について、資料１により事務局から説明をお願い。

（2）令和５年度ホッカイドウの収支状況及び令和６年度ホッカイドウ競馬の開催状況について

○　競馬事業室　福士主幹より資料１を説明。

（平本委員長）
・　本件につきまして、ご質問ご意見等があればお願いしたい。

（石川委員）
・　５ページの主な取組の３つ目の新種牡馬産駒のフレッシュチャレンジ競走について、競馬を知らない者にとって、これのどこが例えばお客様にとって魅力的なのか、また、昨年に引き続き実施することになったということは、やはりある程度実績があったという意味で行っているかと思うが、その辺りのことをあまり競馬に詳しくない者にもわかるように教えていただけないか。

（事務局　福士主幹）
・　競走馬として活躍していた馬が引退して、種牡馬となって初めての生産した産駒を集めてデビューさせるレースで、昨年初めてこういった取組を行った。生産サイドの方に注目していただけるレースで、新たに種牡馬となった馬の産駒がどれくらい活躍するのかというところは非常に興味深いのではないかと考えている。

（石川委員）
・　そうすると、親を知っている競馬好きの人にとっては、あの馬の子供が出ると言う意味で注目されるということか。

（事務局　安田室長）
・　その種牡馬から出た馬がデビューして、良い成績を収めると種牡馬の価値が上がり、生産者としてもメリットがある。また、おっしゃったようにファンとしても種牡馬となった馬がどう活躍していくのか、そういう魅力や予想の面白さにつながっていく。

（石川委員）
・　わかりました。ありがとうございます。

（平本委員長）
・　ファンにとっても生産者にとっても、両方にとって意味があるというところがミソなのだろうと思いながらお話を伺った。

（山下委員）
・　浦和の開催日に門別のレースを売り逃げという形にしたのは今年からだと思うが、売り逃げという形を取ることにした意図と、実際にはまだ２開催しか実施がなかったと思うが、数字的な効果があればご説明いただきたい。

（事務局　庄司参事）

・　売り逃げは、前売りという形になるが、私どもはナイター開催で、浦和はデイ開催で早く終わってしまうため、我々の後半３レースを売っていただくためには、浦和開催が終わる前に、我々のレースを前売りという形で、それを「売り逃げ」と言っているが、売っていただく体系となっている。今までは浦和開催時には早いレースは売ってもらっていたが、そうした形は取れなかった中、後半のレースを南関東で何とか売ってもらえないかという要請を行って実現した。また、専門紙に掲載することによって、ネット発売、ＳＰＡＴ４の発売を多く見込めるのではないかという狙いで６月 18 日から実施している。３日間は発売額 10 億円を超えたと資料に記載しているが、直接的な効果が現れているかどうかについては、まだそこまでは分析できていない。

（山下委員）

・　競馬新聞にメインレース近辺の注目度の高いレースの馬柱を掲載することで、競馬場に来た方が、新聞を買って、家に帰ってからＳＰＡＴ４等で馬券を購入される方もいらっしゃるかと思うが、そういった方を意識した上で、そういった注目度が高いレースを競馬新聞に掲載したということか。

（事務局　安田室長）

・　ホッカイドウ競馬は、後半３レースの売上が全体の６割を占めているので、ここできちんと情報を出していかないといけないと考えている。レースを売ることによって馬柱が掲載されるので、売り逃げをしないと後半３レースが向こうの新聞に掲載されない。今までは中間のレースを発売してもらっており、中間のレースの馬柱は掲載されていたが、それではなかなか発売が伸びていかない。後半３レースを掲載すると売上に反映できるだろうという我々の考えの基にお願いしていった。ネット発売が９割である中、競馬新聞を買う方はコアなファンが多いと思うので、これまでスポーツ紙には掲載してきたが、専門紙に掲載することでコアなお客さんが買ってくれると考えている。ある程度手応えを個人的には感じている。

（事務局　庄司参事）

・　競馬新聞にＱＲコードが掲載されていて、ＱＲコードをケータイで読み取りことによって、ネットにつながって購入できる仕組みとなっている。

（平本委員長）

・　ちなみに、３日連続で 10 億円を超えたとのことで金額が記載されているが、後々分析すると、例えば 10 億４千万円のうちいくらが浦和の売り逃げで売れたものなのか分かるようになっているか。今すぐは別として個々に売り逃げの効果がある程度測定できるか。

（事務局　庄司参事）
・　レース単位での発売額は分かるようになっている。

（事務局　安田室長）
・　売り逃げの浦和での発売はそれほど伸びていない。ネットが伸びてくれれば良いと考えている。

（平本委員長）
・　ということは、専門紙４紙に馬柱掲載が拡充されることが、ネットに誘導されて効果があるということか。

（事務局　安田室長）
・　売り逃げそのものの浦和での現金発売は実際それほど伸びていない。すぐに換金できないので、そこのリスクはあると考える。

（山下委員）
・　インターネット発売は、今、コンビニプリントがあるので、そちらから流入される方もいらっしゃるのかなと、今のお話を聞いて思った。

（佐藤委員）
・　８ページに記載ある、１レース当たりの出走頭数が若干減っているのは、馬が足りないということか。

（庄司参事）
・　その次のページに競走馬の在きゅう頭数を記載しており、令和６年が 862 頭、令和５年が 858 頭とそれほど差はないが、現在調教師の人数は 28 名となっており、昨年の 30 名から退職により２名減っている。その分、馬はいるが、出走に向けた調教が昨年と比べて手が減っていることによる影響があったのではないかと考えている。また、春先の調教の進め具合も遅れがちだったことも考えられる。

（濱田事務局長）
・　今、庄司参事から説明があったように、昨年末で調教師が２名引退された。大型のきゅう舎だったので、結構な頭数を抱えていた方だった。残った周りの厩舎で在厩馬の確保に向けて努力をしていただいたが、いかんせん周囲のきゅう舎も頭数が増えていることもあり、きゅう務員の人数が限られていることもあり、春先のレースに間に合うような調教に時間を要したものと考えている。

（西村副委員長）

・　新種牡馬の、ファーストサイヤーのレースについては、前回の運営委員会で、もっと宣伝すべきという意見を言わせてもらった。２歳馬が 350 頭近く在厩しており、この資源は、全国の競馬場では間違いなく北海道にしかいない。その中で、２歳の新馬戦の最初のスタートは北海道から。そうすると、ファンも生産者もそこに注目するので、それでファーストサイヤーの新種牡馬産駒限定のレースを組んで、もっと公に宣伝したらどうですかという話をさせていただいていた。今年、セレクトセール、セレクションセールといった大きな選ばれた市場が終わったが、中央でいくとナダル、タワーオブロンドン、モズアスコットとか、そういった新種牡馬の子は、早く勝ち上がった馬がすぐセリに反映して、そういう新種牡馬の子は全部値段が付いて売買されている。なかなか勝てない馬は逆に評価されてしまっている。生産者にとっては重要な時期。もろにセリに評価に出る。
・　もう１つは在厩する３歳馬のために越冬馬に在厩資金を出したと思うが、３歳馬の頭数が昨年と変わっていないような気がするが、その効果はどうだったのか。残っていてくださいということでお金を出したものと考えるが。

（事務局　福士主幹）
・　３歳馬に残ってもらうために在厩手当を拡充したが、上位クラスの強い３歳馬に翌年まで残ってもらい、ホッカイドウ競馬を盛り上げていきたい趣旨で、上位クラスに残ってもらうような意識での対策だったが、輸送費の高騰などの影響もあり、上位クラスでない馬が春先に戻ってくる数が少なくなってしまったというところがあるのではないかと考えている。他の要因もあるとは思うが。それなりに強い馬の数は揃っていると現場のほうからは聞いている。

（西村副委員長）
・　遠征していった馬が前よりも戻ってきていないということか。わかりました。

（平本委員長）
・　新種牡馬限定の新馬戦をもっとＰＲすべきだと西村委員がおっしゃっていたことについて、まだＰＲが足りないのではないかというお気持ちか。

（西村副委員長）
・　それもあるが、新種牡馬限定レースは、全国では絶対に組むことができないが、北海道では間違いなく組むことができる。生産者は絶対に注目するが、ファンの方々にもう少しＰＲされたほうがよい。

（平本委員長）
・　石川委員が冒頭で質問された、競馬にあまり詳しくない人にとってこれがどんな意味を持って、例えば、馬券を買うとした時の面白みがあるということが伝わったほうがき

っと良いと思う。生産者にとってもファンにとっても良い企画であって、しかも西村委員がおっしゃるように、北海道でしか組めないものだということを、もっと積極的にアピールされると、ファンにとっても「そういうレースだったらば、血統を見ながら買ってみようか」ということが出てきそうな気がする。 関係者にとっては当たり前な事が、ファンでも初心者のファンにとっては全然当たり前ではなく、なぜこれが意味のあるのかわからないといったことがありそうなので、少しそういうＰＲを積極的にやっていただけると、裾野の拡大にもつながってきて良いのではないかと思いながらお話を伺った。

（糸井委員）

・　８ページに出走頭数が減っているとの説明があったが、年々、始まりに馬が集まりにくくなっていると思う。そういう状況がわかっていると思うが、恐らく来年もまた間違いなく馬が集まりにくい状況になるのではないかと思っている。調教師が２人減っている中で、今から対策を打っていかないと、そこの前年比が上がっていかないのではないか。上げることを目標としていないのなら別だが。何か今の時点で、調教師を確保するためにどうしようとか、頭数を集めるにはどういった工夫が必要かとか、そういったことは何か考えているか。

（庄司参事）

・　今の時点では、これから８月になり、日にちが進んでいくにつれて、２歳馬がどんどんいなくなったり、入厩頭数が減っていく部分があり、また来年の競馬にもつながっていくというのはお話のとおり。今年の春のスタート時点では、９レースや10レースしか組めなかったり、少頭数のレースになったり、開催の前半戦で特に頭数が少なかった。馬は経済動物であり、馬主や調教師も関係するので、馬の確保について、どの程度まで協力していただけるかを、これから意見交換しながら、どのような対策が打てるか、お金出せばどうなのかということはあるが、それ以外の部分も含めて考えて対策を打つことができればと考えている。

（糸井委員）

・　特に今年前半、レースが少なかったいということなので、来年もそういう可能性がある中で、今から何か考えたらよいのではないか。

（事務局　安田室長）

・　先ほど、ご説明した調教師が２名いなくなったことがかなり影響しているのではないか。これをどのように補っていくかというところを、これから今の調教師と詰めていかないといけない。そのために、今年の開催日数84日間が妥当だったのかどうなのかも含めて考えないといけない。我々主催者としては、やはり１日12レースを組むことと、最低でも１レース10頭平均にはもっていきたと考えている。そこに向けて、どういったことができるのか、何が必要なのか、中長期的な確保も含めて、既に動いているとこ

ろはあるが、これからもっと、２歳馬が動き始める間にやっていきたい。

（かとう委員）

・　昨年は全然会議に出席できなかったが、久しぶりに出席し、やはり石川さんが発言された、初めて馬が競走するということが凄く面白いと思った。お話を聞くとますます面白く感じた。売上の９割がネットだということは分かっているが、やはり日高の門別に足を運んでもらうという意味で言えば、武豊さんのトークショーも大事だが、５月 15 日の取組はもっと力をいれても良いと思う。そこで提案としては、競馬新聞やスポーツ新聞というのはコアな方が見るものなので、北海道新聞や読売新聞、日経新聞やテレビ局に、この取組を事前に、この厩舎ではこの子が初めて産みますといったような物語性で追ってもらうようなことを今から頼んでおけば、受け入れてくれる厩舎も多分あると思う。そうすると「行かねばならない」と思ってもらえると思う。レースの１週間くらい前に新聞に２回、３回と書いてもらうとか。私だったらこの文字を見ただけで、「知らなかった、損した」と思った。来年に向けて準備をしていただければと思った。

・　私はたぶん８年くらい運営委員をやらせていただいているが、門別競馬場はやはりすごく環境が良くて、子供を連れて来たいと思う場所なので、５月と夏休みという２つの山で、リアルに人が来るところの目標としてこんなにすごい番組があるということで、是非リアルに競馬場に来てもらうためにこれをもっと活用して欲しいと思った。

（平本委員長）

・　たぶん関係者の皆様が思っているよりも、うまく情報発信すると魅力的な可能性があるということですね。

（事務局　庄司参事）

・　例えば、生産者の携わった方に何かコメントをもらったり、その生産牧場を紹介して、こういうところで育って、こういうような活躍をするだろうというようなＰＲをするといったイメージはあるが、来年に向けて、どういうふうな展開をしていくのかということを含めて、かとう委員のお話も受けながら、参考にして取り組みを行っていきたいと思っている。

（山下委員）

・　今年度からグランシャリオドリームということで、こちらはトリプル馬単を購入される方に向けた施策になるのかと思う。それに付随して、2012 年に競馬法が改正されて、払戻率を自由に変更できるようになったが、ホッカイドウ競馬は３連単、３連複の払戻率が 70％と他の主催者と比べると 2～３％低い。こちらの払戻率にされた意図はまだ分かりかねており、追えていないところではあるが、少頭数のレースで３連単の配当金も少ないと、他の競馬場と比べてやはり３連単を買う旨味がないという言い方になる。去年のホッカイドウの３連単のシェアを見させてもらったが、38％ということで、今す

ぐそれを全部引き上げろというのはなかなか難しいかもしれないが、例えばスポットスポットで、名古屋だと今、モーニングフィーバーということで前半レースだけ３連単を引き上げたり、レース毎の払戻率の引き上げを行っている。例えば高知のファイナルレースなんかもそうだが。それこそ例えば２才新馬のフレッシュチャレンジを引き上げるなど、そういったところでの３連単を買って下さる方へのケアも必要ではないかと考えている。

（事務局　安田室長）
・　払戻率については、売上は３連単が一番大きいので、そこであまり払戻率を上げてしまうと我々の実入りが少なくなり経営が厳しくなるので、当時、経営を安定させるために、一番儲けるところで我々が取らせてもらうように払戻率を設定したと記憶している。
・　我々の今のやり方としては、グランシャリオドリームもそうだが、多頭数でなかなか予想しづらいような番組づくりをまず目指してこういった形を今とらせていただいている。払戻率を変えるとなると、かなり厳しいところはある。おっしゃるとおり単発で、例えば２歳戦を変えるといったことについては検討の余地があるかもしれないが、システム的なこともあるので、検討するに当たっては色々と課題がある。

（山下委員）
・　少頭数だと３連単の払戻金が低く、固いレースだと魅力に欠ける。いたずらに射幸心を煽るということではないが、やはり少頭数で払戻率 70%の３連複、３連単が効いてしまっているのかなとレースを見ていて思うところではある。

（平本委員長）
・　色々な課題もあるということだが、今はどちらかというとファンの目線から見たときに魅力的な賭け方ができるようになっていると良いということだと思うので、ご検討をお願いしたい。
・　特にホッカイドウ競馬として推したいものについて、配当率を少し上げるということがもし可能であるならば、そういうようなことはレースの魅力を伝える意図がはっきりするのかなと思っている。

（山下委員）
・　逆にワイドは少し他の主催者よりは払戻率が高い。

（事務局　安田室長）
・　いわゆる専門用語でヒモというところで、本命は固いが、２着３着、特に３着は分からない馬が来ることはある。

（小椋委員）

・　先ほど調教師の方が２名廃業されたというお話が出たが、９ページにあるように、きゅう務員について、外国人のきゅう務員が３分の１という現状だが、調教師もそうだが、きゅう務員の人達を確保していかないと、馬の確保もそうだが、レース自体が成り立たなくなっていくので、競馬事業室として、きゅう務員の確保、また外国人のきゅう務員の確保に向けて、どのように考えているのか、どのように取り進めをしているのかお伺いしたい。

（事務局　庄司参事）
・　実態として、外国人きゅう務員の方が３分の１いらっしゃるということで、今の状況では外国人きゅう務員の方がいないと競馬ができないという状況と言ってもいいと思っている。確保については、もちろん調教師の方で、雇う人数やどういった国からの人を雇うかを選んでいるが、競馬場にまずは年間通じて居てもらわないと競馬運営ができないので、年間を通じて居てもらうために、以前から行っているが、冬期きゅう務員手当を払っている。
・　今回、運営委員会が始まる前に、調教師住宅を外から見ていただいたが、やはり条件が古い。そういった環境も整えていかないといけない。少し時間がかかるが、先ほど現場を見ていただいたが、厩舎とは別に住宅を用意して、住宅環境を変えながら働いていただくことを今回の整備の中で予定しており、環境改善を含めて取り組んでいきたい。なかなか今の段階で即効薬はないので、徐々に改善に向けて取り組んでいきたい。

（小椋委員）
・　現場で働く人というのは、日本人もそうだが、どこの職種も外国人のウェイトがかなり広がってきているので、厩務員の確保は厩舎で行うが、競馬事業室としても相当テコ入れをしていかないと、確かに環境が変わればよいということもあるが、それだけでは解決できないことも多々あるので、その辺は十分に配慮しながら、事務局としても出来る範囲の後押し、支援を取り進めていってください。

（事務局　安田室長）
・　きゅう務員は調教師に雇われている。その中で働いてもらっているので、なかなか我々が直接雇用するような体系になっていない。そういう中で、雇用保険とか社会保障を充実してあげないと、なかなか生活が安定しないというところがあるので、我々は調騎会に対して、そういった社会保障を支援すると言っているが、なかなか競馬の世界は調教師が雇用主なので、勝つ調教師は経営的にも良いが、あまり勝たないところは経営的に良くない。社会保障も事業主が負担する部分があるので、そこに我々も支援するので、きちんと雇用できるような環境を整えてくださいという働きかけをさせてもらっている。
・　外国人に関しては、やはり生活に対して非常に不安に思っている方がいるので、例えば交通ルールやゴミ出しなど、生活的なところで不安になっているところあるので、公

社が主体となって、勉強会を開いて、そういった生活に困っていないかといった相談に乗ったりとか、そういうフォローをさせてもらいながら、外国人が定着しやすいような環境にはしていきたい。

（平本委員長）
・　いま小椋委員がおっしゃったことは、とても重要なことで、このホッカイドウ競馬を続けるためには、そこがなくなるといけないところなので、是非色々な取組を含めて、持続的な競馬ができるようにご検討ください。

（3）ホッカイドウ競馬の収益構造について
○　競馬事業室　福士主幹より資料2を説明。
（平本委員長）
・　只今、ホッカイドウ競馬の収益構造ということで、ネット販売と、直接売るもの、純利益も含めてどのようになっているのかということを御説明いただいた。この件に関して、ご質問あるいはご意見を受けたい。

（石川委員）
・　ネットが大きいなとか、それに次いで場外があるとか、非常に分かりやすく御説明いただいたが、競馬事業室としては、これからどういう方向性にこの割合をもっていこうという目標はあるか。例えば、やはりネットはこれからも伸びる率が高そうなのでもっと増やしていこうとか、あるいはやはりＡｉｂａを増やしていったほうがいいのではないかとか、そういう方向性というのは今何かお持ちか。

（事務局　安田室長）
・　我々としては、ネットが9割となっているが、やはり競馬ファンを掘り起こす、増やしていく、あるいは若い人を呼び込んでいくには、競馬場で競馬を見ていただかないとつながっていかないという思いがまずある。そのためには、やはり競馬場の売上を伸ばしていきたいというのがまず1つ。ただ、今の構造からいくと、どうしてもネット社会になっているので、売上はどうしてもネットが9割以上にはなるので、そのための色々な情報発信が必要。
・　もう1つは、今説明したとおり、80 数日間しか開催できないので、場外の対策もしっかり打っていかないといけない。我々としては本場とネットと場外の3本立てで、しっかり経営を安定させていきたい。ただ、その割合をどうするかはまだ計画の中にはないので、そこもしっかり今後、目標のようなものが必要かと考えている。

（石川委員）
・　今それをお聞きしたのは、やはりネットがドーンと増えたのはコロナ禍ということもあって、それでかなり勢いづいたところがあると思うが、やはりだんだん人が外に出て、

実際、競馬場以外の他の所にも行ったりしてくると、だんだん、今までのような勢いでは伸びていかなくなるのではないかと思い、そこの部分をどうやって補うか、何かあるのかなと思いお聞きした。

（事務局　安田室長）

・　そこはやはり本場だと思う。本場に来ていただいて馬を見ていただき、競馬の魅力あるいは、馬券を買うということではなく馬の魅力、競馬場の魅力、こういうことを通じて、競馬ファンを少しでも増やす。ネットには限界が今後出てくる可能性があるので、そこを補うのは本場かなと思っている。

（西村副委員長）

・　このあいだ、地全協の方たちが月曜日に来られて話をしていた時に、南関東で昨年３冠馬が何十年かぶりに、ミックファイアという馬が誕生した。あの馬は常にどこにいるかというと、ミッドウェイファームという大井競馬場ではないところに居る。それは、坂路とか施設の良いところに普段はいて、競馬があるときに競馬場に行く。そういった話をしている時に、ホッカイドウ競馬は全国で一番の地方競馬の中では調教施設を持っており、強い馬を作ることが出来る。強い馬を作るということはスター馬ができる。日本の中で競馬場がないのは、中国地方だけ。九州には佐賀があり、四国には高知がある。僕ら牧場としたら、馬文化とか馬の底辺を底上げしてもらいたい。地域の競馬が盛り上がってもらわないといけない。無くなっては困る。昨年、地方競馬全体の売上は１兆円を超えたが、競馬場の数は当時の半分しかない中で１兆円を超えたのは、やはりネットの環境もそうだが、そういう意味では文化が広がってきているのではないか。そこまではいかないのかもしれないが。

・　北海道は、中央競馬の函館開催と札幌開催があって、やはり日本は何といってもＪＲＡの競馬が中心となっている中で、その馬をやっつけるということで、そのレベルの調教施設は唯一北海道の門別にある。そこでやっつけることでスター馬が、注目される馬が出た時に、「本場」と「人が集まること」はリンクする。何を言いたいかというと、道営でスター馬を作って欲しい。公社も２歳の間は中央馬にも勝てると言っているので、２歳の交流競走をどんどん実施して、中央馬を打ち負かせば、門別の馬は強いということで、人が集まってくる。当然馬主も集まってくる。そういう興行の中で馬のもう一段のレベルアップをさせてもらいたい。昔オグリキャップも笠松から出た。ライデンリーダーもそうだが、桜花賞を取ったりして中央の馬をやっつけた。判官びいきの日本人はヒーロー扱いしていた。ところが今は、中央の調教施設のレベルがどんどん上がっている一方で、地方の施設は１つも変わっていない。唯一、北海道だけが良い施設を持っている。中央の調教師さんたちは、函館、札幌開催の時に、門別の坂路を貸して欲しいとたぶん言われていると思うが、それくらいここの施設は、札幌開催の時に函館までいかなくても、ここを使わせてもらえればというくらいの施設。何度も言うが、スター馬をつくるような興行をして欲しい。

（平本委員長）
・　ありがとうございます。安田室長がおっしゃった本場を大事していくということと、スター馬を作るということが関連があるということなので、是非お願いします。

（中村委員）
・　質問とコメントだが、質問は、楽天さんの収入の落ち幅が結構大きいみたいだが、これはやはりコロナを超えて、コロナの反動みたいなところが大きいのですかという質問で、２つ目はコメントだが、私も、競馬のことに関しては全く詳しくないが、皆さんには、どれだけここに価値があるのかということをいろんな形で発信していただきたいと思うが、例えば北広島のボールパークも野球を知らない人があそこに行ってみたいというふうに思って、その人たちが結果的に野球を見ている。あるいは野球のコアなファンが、他の施設に行って楽しんでいるという、相乗効果が出ていることが評価されていると思う。私もここに来るまで、門別の競馬場が一体どういう所なのか全然イメージ出来ていなかったが、やはりここに来て、馬を直接見たり、隣にいらっしゃる佐藤委員に色々教えてもらったりすると、興味が湧いてくる。やはり門別競馬場のコアな価値というのは、馬という揺るぎないものがあると思う。そこを皆さんに、素人にもわかるように発信していただきたい。札幌競馬場も同じような取組をされているとは聞いているので、こちらでも色々新しいチャレンジとか、知らない人が興味を持てるようなストーリーを作っていただければと思う。

（平本委員長）
・　おっしゃるとおりだと思う。競馬場は、来たことがない人にとっては何か胡散臭い場所だが、一度来ると意外に開放感があって、しかも馬との距離も近く、飲食なども出来て気持ちの良い場所。最初に行ってみないとわからないので、最初に来たいと思えるような色々な仕掛けがあると良いと常々思っている。

（事務局　安田室長）
・　楽天については、実は料率を下げていただいていて、今も下げていただいている経過中。その反面、楽天が色々なサービスを打っていたところを、例えばポイント還元などを弱めてしまっている。その分があって少しお客さんが離れている可能性があるのかなと私どもは考えている。ただその分、我々としては経費が落ちているので、あまり大きな影響はないのかなと考えている。

（中村委員）
・　まさに収支構造の中で、収入と費用をどうバランスさせていくかということと思う。楽天さんがカンフル剤的に打っていただいた施策が、それが永続的に続けることが難しいというのであれば、その費用の分をしっかりみていかないといけない。

（かとう委員）

・　ツーリズムの専門家として、日高愛や、日高に詳しいのでここに来ていると思っているが、羽田や伊丹からここに飛んでくる時に、サラリーマンが千歳に泊まっている率が意外と高いことを知っている。みんながみんな札幌に泊まらないで千歳市に泊まっていることを知っている。そうすると、新千歳空港から千歳市に行っても、居酒屋もそれほどでもなくて、つまらない夜を過ごしているということを聞いている。開催日に例えば18 時に空港に着けば、19 時には競馬場に着くのではないかと私は思っている。 7 ページに記載のある札幌からのバスについて、私は 5 年も 7 年も前からこれはもったいないと言い続けているが、たまに新千歳空港からここに連れてきて、その人を千歳の駅まで戻すとか、苫小牧で降ろすとか、そういった調整をしてもよいのではないかと思っている。先ほども平本先生とも話したが、飛行機からここのギラギラした銀色のものが見えるので、そういうこととうまく合わせてＡＩＲＤＯの機内誌に書いてもらうとか、何か連携して、行きたいなと思わせる。夜便のギリギリ、例えば 17 時 30 分とか 18 時くらいに千歳に着く便で、門別競馬場に行って、この辺には泊まれないので、千歳か苫小牧に、といったコースを作ると、私は男性だけでなく女性も来ると思う。知らないし、足もないと絶対来れないと思う、ということをどうしても言いたかった。

（平本委員長）

・　知ってもらうと来てもらえるし、足があれば来てもらえる。なかなか千歳の往復はすぐに実現するのは難しいかもしれないが、色々な可能性があるので、ぜひ可能性を探っていただければと思う。

（事務局　安田室長）

・　毎日は厳しいかもしれないが、ビッグレースがあるときは、ぜひ検討したい。

（山下委員）

・　本場の話の流れとはまた別の切り口の話になるが、Ａｉｂａの役割について質問させていただきたい。Ａｉｂａは、例えば浦河でビアガーデンをやっていたり、今回ご説明いただいたような滝川のイベントを打っていくということもあるが、Ａｉｂａが 15 か所ある中で、確か公社が運営しているのは２～３か所だったかと記憶しているが、Ａｉｂａの中でＡｉｂａを運営する会社があると思うが、運営会社の方針次第というところによるところが大きいのか、また事業室として各Ａｉｂａにどういった働きかけをしていくのか何か議論のようなものがあれば教えていただければと思う。

（事務局　安田室長）

・　Ａｉｂａについては、我々は民間場外と言っている、民間のノウハウを場外の運営に

取り入れてもらう仕組みを入れているが、その場外は全道に４か所あって、札幌市内の２か所と、釧路、登別室蘭であり、それ以外については公社の直営。場外は、一時期コロナで移動制限がかかった時期もあり、発売が落ちたが、先ほど言った柱の１つとなっているので、そこをしっかり立て直していきたい。色々なイベントも仕掛けながら、場外の収益の拡大に努めていきたい。

（４）まとめ

（平本委員長）

・　それでは、今日は皆様方から活発に御発言いただき、ホッカイドウ競馬を今後より魅力的なものにするための御提言を多々いただいた。また、いわゆるバックオフィスであるきゅう舎あるいはきゅう務員の方々の住宅などについての御指摘もいただいた。やはりホッカイドウ競馬、今のところ 500 億円台の売上をこの数年ずっと続けており、利益も出ているとのことだが、ただこの状況が未来永劫続く訳ではない。また、最後に話題に出たＡｉｂａについても、だんだんファンが高齢化していくと利用者数が減っていくという可能性もある中で、中長期的にはどういう方向性でどういう形でこれを盛り上げていくかということについて、今までとは違う種類の議論が必要になるという可能性があろうかと思う。その意味で、今日の御議論はもちろんだが、今後更にそういった形で、ホッカイドウ競馬が持続可能になり、かつ永続的に発展していくというような形で、この地方競馬運営委員会が進んでいくといいなと思っている。
・　私は、この地方競馬運営委員会を４期務め、今度の１月で任期満了となる。恐らく年内は今日が最後の委員会だと思うので、その限りでは今日が最後ということで、これまで委員の皆様に大変御協力いただき、また、競馬事業室そして公社の皆様方にも大変ご支援いただきながら、どうにか素人ながらこの委員を務めることが出来ましたことを御礼申し上げます。どうもお疲れ様でございました。

（事務局　庄司参事）

・　平本委員長には大変長きにわたり、委員長を務めていただき感謝。
・　また、本日は色々と貴重な御意見をいただき御礼。
・　閉会に当たり、安田室長より一言御挨拶。

（安田室長）

・　本日は、お忙しい中、様々な貴重な御意見をいただき感謝。本当にどれも大切なことで、しっかりやっていかなければならないと思っている。今後のホッカイドウ競馬に生かしていきながら、ファンの拡大や経営安定に努めていきたい。
・　この後も、懇親会を予定しているので、その場でも色々な御意見をいただければと思っている。
・　先ほど平本委員長からも御発言があったが、来年１月まで任期があるが、何もなければ今回が最後の委員会になるかと思う。平本委員長をはじめ委員の皆様には、色々ご意

見をいただきありがとうございました。

・　本日はありがとうございました。

（以上）